

中ヒスタミンの排泄値とが密接な関係を有していることが知られている。これらのことから、血中ヒスタミン値と、拒絶反応との間にもなんらかの関係があるのではないかと考えて、腎移植を行なった患者数例の血中ヒスタミン値を螢光光度計を用いて経日的に測定した。

CD₉, CD₁₁ は健康人の正常値 0.1 µg/ml より若干高い値を示したが、BUN の値とほぼ平行し、CD₁₃, CD₁₅ は BUN と関係なく術後早い時期に正常人の倍という高値を示した。この成績から拒絶反応との関係というより十二指腸潰瘍との関係があるのではないかと疑われる。詳細については今後の検討を待たねばならない。

30. Donor 選択のための白血球交差試験

—その手技の検討—

木内政寛・雨宮浩・宮島哲也(千大)

臓器移植において Hyperacute rejection 防止のために白血球交差試験が必要と考えられるようになってきた。試験法は種々の方法があるが、今回は液性抗体陽性の血清を使用して検査した。

白血球凝集反応はマイクロプレート法、試験管法を行なったが、細胞数はプレート法では 1000~2000/mm³, 試験管法では 5000/mm³ が適当であり、incubate は 1 時間が良好であった。リンパ球障害試験は Terasaki 法によったが、以上のふたつの試験は手技も容易で時間も短く、交差試験としてよい方法と思われる。Latex 凝集反応、γグロブリン消費試験などは手技、時間など問題がある。またこれら試験を同じ抗原で比較すると、反応は同一傾向を示すがその態度はやや異なる。これは抗体の性質、手技の安定性などによるのであろうが、今後検討したい。さらに尿毒症患者血清で白血球凝集反応、リンパ球障害試験を行なうとかなりの頻度で陽性があり、交差試験の重要性を認識させられた。

31. 食道裂孔ヘルニアの病態生理と治療成績

原 輝彦・平島 毅・西村 明・
塩田彰郎・竹島 徹・塩田悌司・
竹内英世(千大)

1965年1月より本年9月までに教室外来を訪れた成人の食道裂孔ヘルニア70例のうち、手術施行例は経胸的3例、経腹的18例の計21例である。アンケートにより良好と回答した症例は非手術例24例中13例(54.2%)、手術例10例中7例(70.0%)で、手術例がわずかに優っていた。

本症の食道胃接合部静止圧曲線は2型に分類される。単峰性は正常例と同様な下部昇圧帯を示す型で6例に認

められ、また2峰性は下部昇圧帯とその口側にもうひとつの昇圧帯を示す型で12例に認められた。これら2型のそれぞれの昇圧帯の最高圧および昇圧帯長の平均値を正常例20例の平均値と比較すると、単峰性、2峰性ともに正常例に比し最高圧の低下と昇圧帯長の延長を示していた。なお術後の6例は全例単峰性となり、術前に比し一層の最高圧低下と昇圧帯長の延長を示した。

32. 上部胃癌の術後愁訴と再発

佐藤 裕俊(千大)

1946~1970年までの上部胃癌手術症例数は総数1497例でその手術成績は2.9%である。

術後愁訴を再建術式別にみると食道空腸有茎移植吻合が最も術後愁訴が少なく、つぎに食道胃吻合、Roux Y 吻合、β 吻合、BII 吻合の順である。

再発には当科において切除手術を施行し、退院後再発死亡した27例の剖検例を検索の対象とした。術式は胃全摘8例、噴門切除7例、幽門側胃切除12例である。術式別に再発形式をみると胃全摘8例中4例が、また噴門切除7例中3例が腹膜再発でそれぞれ一番多いのに対し胃切除例では局所再発が一番多い。上部胃癌ではs(+)例が多く、また後者は断端(+)例が4例に認められた。再発形式別では局所再発は断端癌遺残はもちろんのことs-factor も関係している。腹膜再発は全例s(+)例であるのに比しn(+)例は半数にとどまり、s-factor と関係が深い。他臓器再発は4例中3例が腺癌であり、3例がs(-)、3例がn(+)であるが、n(-)例でも他臓器再発が認められることは十分注意する必要がある。

33. 組織適合性試験とその近況

宮島 哲也(千大)

現在組織適合性に関する基礎概念としてHL-A System が提唱されており、その真実性に関し、基礎的、臨床的に追求されている。

HL-A System については Terasaki のデータによれば first sublocus では10種の抗原 gene frequency の合計は0.98, second sublocus では15種の抗原 gene frequency の合計は0.90となり、ほとんど解明されていることになる。

しかし腎移植例によるHL-A System の妥当性の検討は、兄弟間では良好であるが、非血縁者間の成績は必ずしも満足すべきものではない、これらの話題を中心にその現況および問題点を述べた。